若いなかま

若いなかま　No.213
2022（令和４）年　7月15日　発行

発行（公社）福岡県青少年育成県民会議
〒812-0046　福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F
TEL(092)643-6001　FAX(092)643-6003
E-mail：net.y.d@isis.ocn.ne.jp
ホームページ：https://fayd.jp/

◀6年　苅田町立馬場小学校　古川　未憂奈

◀2年　苅田町立白川小学校　井中　ももか

◀5年　柳川市立垂見小学校　田中　もあ

◀1年　遠賀町立遠賀南中学校　五十嵐　隆人

◀令和3年度「家庭の日」「オアシス運動」ポスターの部
九州産業大学付属九州高等学校1年　大野　珠季

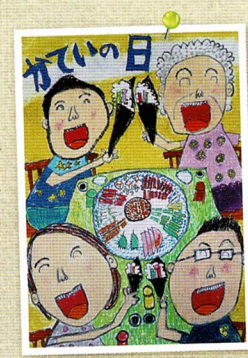
最優秀賞

◀1年　九州産業大学付属九州高等学校　伊藤　大観

◀4年　苅田町立馬場小学校　石川　知冴

◀1年　水巻町立伊左座小学校　吹田　建

◀2年　芦屋町立芦屋中学校　花田　朋香



◀3年　福岡市立弥生小学校　上原　大空

目　次

令和４年度定時総会開催……2
事業計画……3
青少年育成活動で表彰（個人）……4
青少年育成活動で表彰（団体）……5
永年賛助会員に感謝状贈呈……5
特集　福岡県タレント発掘事業……6・7
「世界の舞台にはばたけ」～自分のスポーツの可能性を求めて～
「青少年育成　考」……8
事務局だより……8

（公益社団法人）福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。
（昭和45年社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。）

公益社団法人 福岡県青少年育成県民会議
令和4年度 定時総会

とき：令和4年5月27日(金)
ところ：福岡リーセントホテル

公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の定時総会が開催された。令和3年度事業報告及び収支決算が審議・承認され、新たな役員についても選任された。また、令和4年度の事業計画及び収支予算についても報告された。当日は、新型コロナの関係上やむなく規模を縮小し、来賓のご臨席もかなわず、正会員のみの開催となった。

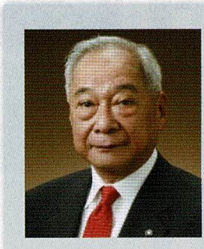
総会の最初にあいさつに立った長井会長は、新型コロナ感染状況の高止まりを鑑みて、今回の定時総会の規模を縮小したこと、また、長年にわたり青少年健全育成活動に優れた取り組みをされている表彰授与者の方々への献身的な努力と功績に対し敬意とより一層の活躍を期待すると述べた。また、今年発表の15歳未満のこども統計データーのタイトル「子どもの数は1465万人、41年連続の減少」、「総人口に占める子どもの割合は11・7%、48年連続の低下」が表すように子どもの減少傾向は続くと予測され、子どもたちを巡るこのような厳しい現実と予測を踏まえると、将来を担う青少年の健全育成の重要性は、ますます高まるばかりだ。県民会議が社会的使命を果たしていくためには、引き続き、感染予防に配慮しながら、次世代を担う健やかな青少年を育成するため、「青少年の置かれた立場」、「社会が青少年に求める姿」を的確に把握して、市町村民会議や青少年団体の皆様方と一緒になって、この運動を進めていく県民会議の役割には、大きなものがあり、その役割を果たしていくには、息の長い取り組みと、地道ではあるが、着実に、活動の実績を積み重ねていくことが基本である、との思いを強くしている。と挨拶した。

知事よりのメッセージ

福岡県知事
服部　誠太郎

福岡県知事より、「様々な活動に取り組まれ、時代を担う青少年の健全育成に貢献してこられました。関係の皆様のご努力ご尽力に心から感謝申し上げます。私は県政を進めるに当たり挑戦していくものの一つとして「次代を担う『人財』の育成」を掲げています。引き続き県の取り組みへのご支援、ご協力をお願いしたい」とのメッセージを頂きました。

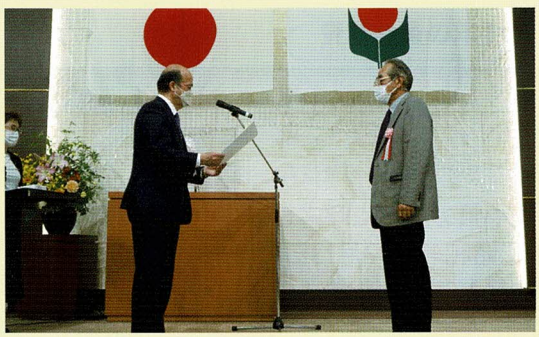
議長よりの祝電



福岡県議会議長
秋田　章二

また、福岡県議会議長からも「将来を担う青少年の健全な育成のため日頃よりご尽力いただいていることに深く敬意を表します」との祝電を頂きました。

寄附金に対して感謝状を手交



久留米市の笠原高司様より「家庭教育の健全化取り組みの充実した運動を推進する」為、県民会議に寄附金を頂きました。笠原様には、長井会長が総会で感謝状と記念品を渡し、「笠原様の意向を大事にし、青少年の健全育成の一層の発展のために有効適切に使用させて頂く」と謝意を伝えました。なお、笠原様は、昨年度まで県民会議の専門部会の家庭部会副部会長を務めて頂きました。心より、感謝申し上げます。

令和４年度事業計画

基本方針：新型コロナウイルス感染防止策を講じ、事業の参加者・関係者の安全確保を最優先し、青少年育成の健全育成事業を展開していく

1　青少年関係団体等の活動支援事業

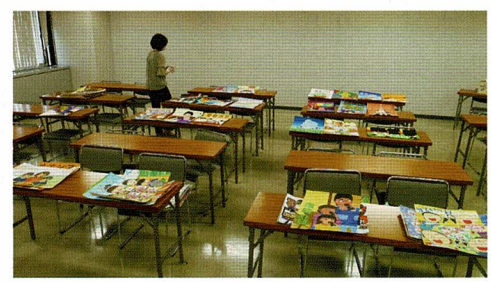
- 市町村民会議等の活動支援
- 青少年関係団体等の顕彰
- 福岡県青少年育成アドバイザー連絡協議会の活動支援

2　青少年育成健全事業

- 少年の主張福岡県大会　令和４年９月４日（日）　筑紫野市文化会館大ホール
- 少年の野外学習事業（異年齢交流で育て！青少年育成キャンプ）
  令和４年８月３日（水）～７日（日）　長崎県諫早市
- 青少年囲碁交流事業（実行委員会主催）
  福岡県大会　令和４年８月２８日（日）　福岡市
  福岡県江蘇省青少年囲碁交流大会　令和５年３月下旬　江蘇省
- 青少年体験学習活動ボランティア養成事業

3　健全な家庭づくり推進事業

- 「家庭の日」「オアシス運動」の推進　作文・ポスターの募集
  令和４年８月１日（月）～９月９日（金）
  最優秀作品、優秀作品の表彰、展示　（アクロス福岡、県庁ロビー）
- 乳幼児教育研修会　令和５年２月
- 親子教室事業　活動費を助成
- より良い親子関係講座　活動費を助成



4　広報啓発事業

- 広報紙「若いなかま」の発行　年３回（７月・11月・３月）
- 広報活動　令和５年２月　県民会議各事業パネル展示
- 各種啓発資料の発行　少年の主張発表文集、野外学習報告書、広報啓発リーフレット、その他
- 県民会議ホームページによる啓発活動

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

ふくおかフィナンシャルグループは、まちや人が輝く場面をともに創り、寄り添うことで、
地域とともに、お客さまとともに成長していく存在となることを目指しています。

いちばん近くで　　いちばん頼れる　　いちばん先を行く

それが、私たちからお客さまへの約束です。

福岡銀行

青少年育成団体等表彰

永年にわたって青少年の健全育成活動に努め、その功績が顕著な8個人4団体に表彰状が贈呈されました。
また、青少年の健全育成に深い理解を示し、支援に尽力された3団体13個人賛助会員に感謝状が贈られました。

【個人の部】

（　）は活動年数

西　和政　氏　上毛町（11年）

平成22年に上毛町青少年育成町民会議会長に就任以来、事業計画策定から実施まで率先して取り仕切り、町民会議の活動の充実発展に多大な貢献を果たす。

平成18年から豊前警察署少年補導員、平成24年から少年補導連絡会会長として、少年の非行防止、犯罪防止のため、昼夜を問わずパトロール活動を行った。その功績により、令和3年に警察庁長官、全国少年警察ボランティア協会会長から「全国少年補導功労者栄誉銀賞」を受賞している。

一瀬　副勉　氏　行橋市（18年）

平成6年から仲津中学校PTA副会長、会長を務め、家庭、地域、学校の架け橋として子供の健やかな成長に尽力した。

平成20年から行橋警察署少年補導員、平成22年から仲津校区青少年育成協議会補導員に就任し、駅周辺の補導等の活動に取組んだ功績により、平成28年に行橋市青少年育成市民会議会長賞を授与された。

令和2年から県民会議の青少年育成運動推進指導員に任命され、県民運動の推進にも励んでいる。

山田　幸美　氏　行橋市（20年）

平成13年から行橋市民生児童委員、平成16年から行橋市教育委員会青少年特別相談員、平成18年から行橋警察署少年補導員を歴任。各機関と協議して地域の対象少年の問題解決に務めた。

平成26年から福岡県青少年育成アドバイザー、平成28年から行橋警察署協議会委員、平成29年から県民会議家庭部会委員に就任し、さまざまな立場で青少年の健全育成に積極的に関わる。その功績に対し行橋市青少年育成市民会議会長賞を授与されている。

松川　里美　氏　行橋市（17年）

平成16年に行橋小学校PTA会長として家庭、地域、学校の架け橋となり子供の健やかな成長に尽力。平成18年から行橋警察署少年補導員に就任し、各機関と協議を重ねて地域少年が抱える問題の解決に務めてきた。

平成26年から福岡県青少年育成アドバイザー、平成28年から県民会議家庭部会委員に就任し、研修会の実施、よりよい親子関係づくり事業の推進に貢献。その功績により、行橋市青少年育成市民会議会長賞が授与されている。

大原　修二　氏　福岡市（33年）

昭和63年に公民館活動の一環として、氏は「賀茂少年剣友会」を設立した。現在では氏を含む6名のボランティアが週に3～4回、小中学生34名に剣道を指導し、精神、技術、体力の向上を図っている。年間を通じて他地区への出稽古や剣道大会の出場も積極的に行う。

平成19年の県警退職後に町内会長への推薦を受け、平成21年から早良警察署少年補導員として、通学路での登下校時の見守りや夜間パトロール活動など、熱心に青少年育成活動に取り組んでいる。

小川　一洋　氏　八女市（15年）

八女市と広川町の少年が参加する「上陽町少年剣道クラブ」で、氏は八女消防本部職員の傍ら、15年にわたり毎週3回剣道の指導を行っている。

週末の他道場との練習試合や剣道大会にも積極的に参加し、中体連や県大会での入賞の実績も残している。

氏は、剣道の指導を通じて、技術の向上をはじめ、強い身体づくり、規範意識の高揚、連帯感の醸成、克己心の涵養、礼儀作法の習得等に力を入れ、少年の健全育成と非行防止に取り組んでいる。

山科　譲二　氏　八女市（14年）

氏は14年にわたり星野村道場で地元少年に週3回剣道を指導してきた。剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨し、旺盛な気力を養い、礼儀作法を身に付け、将来に社会貢献ができる人格の形成を目的として、青少年の健全育成活動を続けてきた。

令和2年度に開催された八女市少年剣道低学年の部で団体優勝、筑後地区少年剣道大会低学年の部で男子個人優勝の実績を上げ、その指導力と青少年の育成活動は高く評価されている。

井手口　真策　氏　八女市（10年）

氏は10年にわたり大淵道場で地元少年を対象に、剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨し、旺盛な気力を養い、礼儀作法を身に付けて、将来は社会貢献できる人格の形成を目的に、毎週2回剣道の指導を行ってきた。

道場に通う子供の数の減少、新型コロナ感染症対策に伴う対外試合の中止など子供たちの士気が下降気味の状況を打破するため、近隣道場との対外試合を始め指導者同士が子供の指導方法を話し合うなど、常に子供の成長を第一に考えて指導に当たっている。

【団体の部】

（　）は活動年数

ちいきまもろうたい　豊前市（12年）

平成21年に豊前市と築上郡に事務所を置く豊築自動車販売店協会会員で結成され、地域への恩返しにほぼ毎日青パトで自主防犯パトロールを行う。特に毎月特定日には登下校時間帯に学校周辺で実施しており、その活動が青少年の健全な育成環境整備に貢献し、地域住民からも厚い信頼を得ている。

警察署の地域安全推進大会、年末年始特別警戒にも積極的に参加し、地域の青少年の模範となる活動を発足以来継続。犯罪発生件数や少年の再非行率の抑制など、その活動の効果は大きい。

中井フェニックス　北九州市（56年）

軟式少年野球チームとして昭和40年に設立され、小倉北区の中井小学校、井堀小学校を本拠地として週3～4回練習。監督や指導者が、練習を通じた人間形成、人格形成を柱に「挨拶、礼儀、言葉遣い」を重んじる指導を旨として、少年の健全育成に努めている。

チーム設立以来、環境美化運動や、少年・指導者・保護者による防犯パトロールを行っており、少年たちに地域社会の一員である自覚を促すための活動全般が他団体の模範となっている。

ボランティア団体　おもちゃ病院伊都国　福岡市（14年）

平成19年の設立以来「物を大切にする優しい心の育成」を理念とし、壊れたおもちゃの無償修理、修理体験学習、リユース支援活動など、少年を対象とした居場所づくりとして地域に根差した活動を実施。子供たちに感動と夢を与える活動は高く評価され「環境大臣賞」「福岡県市民教育賞」など数々の賞を受賞している。

メディアの取材で知名度が上がり、今では途上国の子供たちへのおもちゃの寄付依頼が舞い込み、途上国の孤児院へのおもちゃ送付も行うようになっている。

芦屋町自治防犯組合　芦屋町（44年）

本組合は各自治区の区長で構成され、昭和52年の設立以来、青少年を問題行動から守る目的で週3回夜間巡回を行う非行防止活動と、青少年のあいさつ啓発運動として小中学生の通学時間に合わせた月2回の青パト啓発活動とを実施している。

この活動により、非行防止や小中学生のあいさつ励行など、啓発運動が着実に推進され、芦屋町の青少年健全育成活動とも連携した息の長い取り組みは、地域住民から厚い信頼を得ている。

永年賛助会員感謝状

※敬称略

◎20年賛助会員（1団体1個人）

・（株）丸信
・原　明義

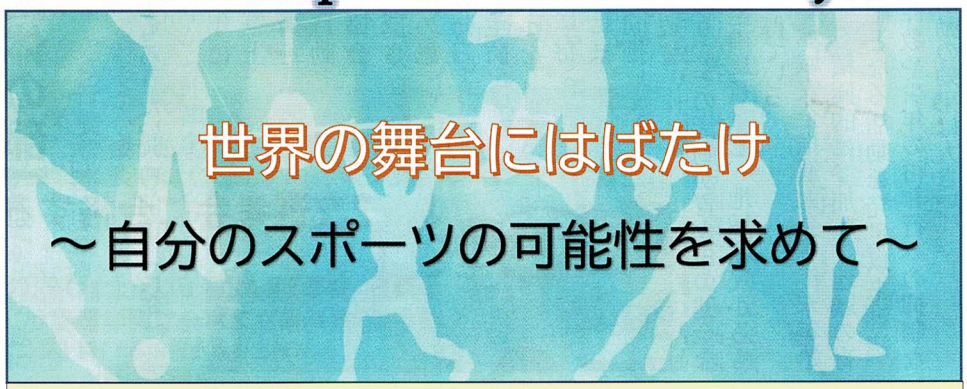
◎10年賛助会員（2団体12個人）

・（一社）福岡県労働者福祉協議会
・（株）西日本新聞ビルディング
・新井　潤　・新井　洋子
・大原　始　・厨　元博
・副島　紀身　・中島　貴美子
・中島　浩　・深見　健児
・堀家　克巳　・真子　太
・村田　洋平　・吉原　陽子

福岡県タレント発掘事業

この事業は平成16年に福岡県が国の協力を得て、子どもたちにスポーツに触れ合う機会やより高いレベルで活躍できる機会を創るための事業として設立。福岡県は全国に先駆けて発足。
事務局を博多区東平尾公園にある福岡県立スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）に置き運営している。

Fukuoka Sports Talent ID Project



タレント発掘事業の目的は自己の能力に気づいてない子どもたちを　①見つけて　②育て　③活かす　事業です。
※以下、この事業の概要を紹介する。☞

①見つける▼ セレクトプログラム

◆1次選考会

☆選考対象学年：小学校4年生～中学校1年生
☆応募方法：①各学校で行う新体力テストの結果申し込む（学校単位での申し込み可）
②各地区測定会・アクシオン測定会に参加にする。福岡県下、誰でも応募可。
毎年、福岡県下の小・中学校に応募用紙配布。
☆応募期間：7月1日～10月10日まで（令和4年度）
☆応募者数：平成29年（2017）は5万6千人を超えたがコロナ感染拡大で令和2年は減少。しかし、令和3年度は2万9千人を超える応募があり、回復傾向。
☆選考種目：小学校の新体力テストが基本。
測定会では立ち幅跳び・25m走・ボール投げ（スピードガン測定）・反復横跳び・20mシャトルラン（小6・中1）

◆2次選考会（約330人選抜）

1次選考会に合格すると11月中旬に福岡県立スポーツ科学情報センターで2次選考会を実施。
☆実施科目：25m走・立ち幅跳び・捕捉ゲーム・四方向ステップ・テニスボール投げなど。
☆2次選考発表：11月下旬

◆3次選考会（約120人選抜）

☆2次選考会に合格すると12月上・中旬に同センターでステッピング・ジャンプパワー・ヒアリングなどを受ける。合格すれば福岡県タレント発掘事業の育成プログラムを受講できる。（受講生に認定）
☆合格者数：合格する児童・生徒はその年により異なるが1学年30名前後になるよう選出。男女比は考慮せず選考。実質5年生から活動開始。中学3年生まで（5クラス・約150人が所属）

②育てる▼ 能力開発・育成プログラム

毎週土曜日18時～20時に実施。様々なプログラムを通してトップアスリートに必要な能力・知識・態度を身に付ける。ウエイトリフティング・ホッケー・アーチェリー・フェンシング・ライフル射撃・なども経験できる。

☆練習時間：毎週土曜日18時から20時まで2時間。学校の部活・習い事が終わって参加。

☆練習場所：プログラムよって場所が変わる。フェンシングやレスリング、アーチェリーなど場所が限定されるため毎週水曜日にHPを更新し変更を伝える。

☆移動手段：家族のサポート。県下全域から参加するため、遠距離の参加者もいる。プログラムにより長距離移動の可能性も。

☆保護者プログラム：トップアスリート育成には家庭でのサポートも重要。保護者を対象に栄養、食育、スポーツ障害に関するプログラムを実施している。

③活かす▼ パスウェイプログラム

☆オーディション：普段はあらゆる競技を通したコーディネーション能力向上のためのプログラムであるが、6年生から中学1年生の進級時と中学2年生から3年生に進級する時にオーディションを受ける。運動の能力や特性など各競技団体の指導者に見てもらい適正を評価してもらう。中学2年のオーディションの評価を参考に高校で実施する候補競技3種目を選び、中学3年時のトライアウトにつなげる。

☆トライアウト：中学3年時に、各競技団体の方に直接指導してもらうことにより、その競技の適正評価をいただく。その評価をもとに、保護者・事務局・自らが納得いく競技選択をプレゼンテーションする。あくまでも競技選択は自己決定であり、自分自身の進路、目標を定める。

以上が福岡県タレント発掘事業の概要である。

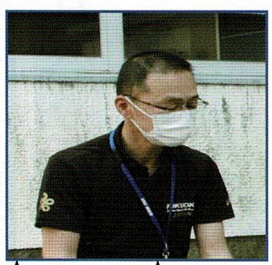
トライアウトの様子

競技選択プレゼンテーション
目標は2028年ロス五輪！

▼6月4日(土)県立須恵高校で取材▲

土曜日の受講生の練習拠点の一つである福岡県立須恵高校を訪ね、担当の福岡県スポーツ振興センター・スポーツ推進課の手島和人係長にお話を伺った。手島氏はこの事業の事務局次長を担当。この日は5年生の「SAQトレーニング」と中学生1～3年生の陸上競技投てきのプログラムを見学させて頂いた。

先の概要説明は手島係長のお話を参考にさせて頂いた。その他にこの**事業の課題**や**目標**などをお聞きした。



★育成環境が整ってないものもある。（フリースタイルスキーエアリアル）

★年齢的に間に合わない競技も。

★十分な専門分野の人材確保と育成環境も必要。

今後の目標や気になっていることは？

★今年で設立19年目。修了生は418名に。彼等のセカンドキャリアのフォローも課題。

★修了生が講師・コーチ・教員となって指導者になるケースもあり好循環を非常に喜んでいる。

★昨年の東京五輪に修了生3人が選出され、世界に通じる人材育成ができていることを実感。

★一人でも多くの子どもたちが夢を叶えられるよう事務局としても最大限のサポートをして世界に羽ばたける人材をもっと増やしていきたい。・・・と話していただいた。

★ **受講生のインタビュー**

小学校5年生のSAQのプログラム（須恵高校体育館）

中学生の陸上投てきプログラム（須恵高校グラウンド）

草場翔瑛君：志免東中学校1年生 お姉さんの影響で受講生に応募 専門は野球部、将来も野球に進みたい。ソフトバンクのファン。苦手な科目もあるが、楽しく練習。

南有紗さん：福岡市内に在住。家族の車で1時間かけてこの会場へ。好きな種目はスピードクライミング、やっていて楽しいし記録もどんどん速くなっている。

事務局だより

主な行事（令和4年3月26日～令和4年7月15日）

3月
- 26日(土) 第4回健全育成部会

4月
- 1日(金) 島田交流課長赴任
- 「家庭の日」「オアシス運動」作品展示
- 5日(火) さわやかマラン大会会計監査
- 14日(木) 第1回総務部会
- 20日(水) 県民会議監査
- 21日(木) 青連協監査
- 26日(火) 青連協常任委員会（以降、5月24日、6月21日、7月19日 ※オンライン）
- 27日(水) 第1回理事会

5月
- 12日(木) 第1回広報部会（以降、6月9日・23日、7月5日・14日・22日）
- 県青少年囲碁大会監査
- 13日(金) さわやかマラソン大会第1回事務局会議
- 26日(木) さわやかマラソン大会第1回実行委員会
- 27日(金) 第1回家庭部会
- 28日(土) 定時総会・第2回理事会
- 青連協第1回委員会（総会）

6月
- 4日(土) 広報部会取材（タレント発掘事業）
- 8日(水) 第1回県青少年囲碁大会実行委員会
- 12日(日) 登録ボランティア・サポーター研修会
- 第1回健全育成部会

7月
- 10日(日) 「育成キャンプ」スタッフ打ち合わせ会並びに参加者・保護者の事前説明会

新正会員・賛助会員紹介（令和4年7月現在）

団体正会員

大牟田市青少年育成推進本部会議

個人賛助会員

高井良優里（大牟田市）
島田達也（福岡市）
河合昭江（福岡市）

赤い羽根共同募金

じぶんの町を良くするしくみ。
www.akaihane.or.jp

高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。
災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

青少年育成“考”

『ガールスカウト運動100周年に思う』

公益社団法人 福岡県青少年育成県民会議理事
福岡県青少年団体連絡協議会副委員長
（一社）ガールスカウト福岡県連盟副連盟長
河合昭江

Girl Scouts of Japan

私は、（公社）福岡県青少年育成県民会議の理事として、福岡県青少年団体連絡協議会（以下、青連協）の副委員長に就任しています。そして、私の活動基盤であるガールスカウト福岡県連盟は、青連協の構成団体の一つであり、ガールスカウト運動が日本で始まって、昨年、100周年を迎えました。

ガールスカウトは、1920年から100年もの間、少女たちが世界に目を向け、自分自身や社会課題に対して挑戦し、自らを考え行動する力を身につけた女性に成長できる場を提供し続けています。

私たちガールスカウトが、大切にしていることは、「自己開発」、「人とのまじわり」、「自然とともに」の3つのポイントです。

そしていま、「SDG5：ジェンダー平等を実現しよう」の達成に向けて、『変えよう、もっと世界をしあわせにするために。変わろう、もっと素敵な自分になるために。ガールスカウトは世界中で女性の幸せを願う団体。そこで、活動することはきっと世界の未来を変える事。私たちひとりひとりのチカラで。明日の世界は変わる、わたしが変われば未来が変わる。』をモットーに活動しています。

福岡県のガールスカウトの歴史は、1948年から始まり、1964年に福岡県支部が発足しました。2002年に法人化され、「一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟」として活動し続けています。

CHALLENGE
CHANGE
FOR HER WORLD

「やくそくとおきて」のもと、就学1年前から高校生年代の少女が年代に応じたプログラムで、知識や技術を磨くとともに、「博多どんたく」、「子どもまつり」、「大蛇まつり」、「ユニセフ募金」など、地域の伝統行事や奉仕活動にも参加しています。

100周年を節目に、今後もガールスカウトは、さらに声を上げ、「だれもが自分らしく生きられる社会を目指して」、行動していきたいと思います。今後も青連協をはじめ、関係する青少年団体ともしっかり連携しながら、青少年の健全活動を進めて行きたいと思います。

編集後記

新型コロナ感染症拡大から3回目の夏▼博多どんたく・博多祇園山笠などは制限がある中、開催され少しずつ日常を取り戻しつつある▼5月の県民会議「定時総会」は正会員のみ出席の小規模ではあったが開催できた▼広報部会は3年ぶりに特集記事を組むことができ広報本来の姿に▼特集で取材した福岡タレント発掘事業▼福岡県下の子どもたちの才能を見つけ・育て・活かすがこの事業の目的▼発足から19年、昨年の東京五輪にはこの事業の修了生の中から3人が日本代表として出場▼ただオリンピアンを育てるのが目的ではなく個々の才能を生かし進路や人生の目標や生き方を見つける場でもある▼結果として多くのオリンピアンや世界レベルの選手が育つことも期待できる▼受講生の今後の成長に期待したい。

県民会議広報部会長　馬場京子

青少年の健全育成のために
賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話（092 -643-6001）をいただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

西日本シティ銀行千代町支店（普通預金）3053033
福岡銀行県庁内支店（普通預金）526475
筑邦銀行福岡営業部（普通預金）1597091
福岡中央銀行本店（普通預金）1030569
ゆうちょ銀行振替　01700-5-4057

編集●県民会議広報部会　発行●（公社）福岡県青少年育成県民会議　でんわ（092）643－6001　印刷●大野印刷（株）

この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。